

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
伊方町	与修・串・正野地区 (与修・串・正野)	令和3年3月19日	

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	27.0ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	18.3ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	12.1ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	10.3ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	-
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計 (備考)	0.3ha

- 注1:③の「70才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。
 注2:④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。
 注3:アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。
 注4:プランには、話し合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

後継者が少なく、中心経営体となり得る人も少ない。鳥獣被害が多い。 中心経営体が引き受け可能な農地は少なく、後継者未定の耕作面積が多い為、新たな農地の受け手の確保が必要。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

与修集落の農地利用は、中心経営体に可能な限り集積するとともに、入作による規模拡大を推進する。また新規就農者の受入れを行い、農地のあっせんを行う。
串・正野集落の農地利用は、中心経営体だけの集約化には限界があるため、入作を希望する農家や認定新規就農者の受入れを促進することにより対応する。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針

<p>農地の貸借に関する取組方針 農業委員等を中心に農地の利用意向を頻繁に確認し、良い状況で農地を貸すことができるように、地域でも管理していく。遊休農地となる前に近隣の耕作者へのあっせんも行う。</p>
<p>後継者の育成・新たな担い手の確保に関する取組方針 農業後継者の育成と、中心経営体となりうる新たな担い手を地域内外から確保する取り組みを進める。</p>

(参考)中心経営体

属性	農業者 (氏名・名称)	現状 [R2年度]		今後の農地の引受けの意向			
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積	農業を営む範囲 (集落)	
1	到達	A	中晩柑	17 a	中晩柑	17 a	与侈
2	到達	B	中晩柑	69 a	中晩柑	69 a	与侈
3	到達	C	中晩柑	32 a	中晩柑	32 a	串
4	到達	D	中晩柑	78 a	中晩柑	78 a	与侈
5	到達	E	中晩柑	44 a	中晩柑	44 a	串
6	到達	F	中晩柑	70 a	中晩柑	100 a	与侈
				a		a	
	計	6人		310 a		340 a	